



学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思えます。
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合っしてほしいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思えます。
よろしくお願いいたします。

★資料名

「めれた本」

★今回の道徳の授業のねらい

正直に真心を持って行動し、明るく生活しようとする心情を育てます。

★お話のあらすじと内容

アメリカ大統領、リンカーンの少年時代の逸話です。少年リンカーンは、借りた本を不注意からぬらしてしまい、どうしたらよいか思案に暮れます。正直に話して謝り、その気持ちを示すために3日間働きます。この誠意ある行動に対して本の持ち主は、その本をくれたという内容です。

正直に真心をもって行動し、誠実に生きると明るい気持ちになれるものです。そのことを子供たちに気づかせる教材です。

★子どもたちの授業のふりかえり

○正直に話してよかったなと思ったことや、授業で感じたことはありますか。

- ・宿題を忘れたときに勇気をふりしぼって言うことができました。正直に言えたのでもやもやした気持ちがなくなったし、大丈夫だよと言われてほっとしました。
- ・あやまれなくてずっともやもやとした気持ちでした。言うときっきりするので正直に話してよかったと思いました。
- ・友達に正直に廊下を走ったことを言い出せなかったけれど、自分は正直に言えてよかったです。
- ・キーホルダーの落とし物を見つけて、届けようか迷ったけれど、やっぱり届けてよかったと思えたことがありました。
- ・お母さんに正直に言えてよかったと感じたことを思い出しました。

★家庭で話し合っしてほしいこと

ご家庭ではぜひ、次の2つのことについてお願いしたいと思えます。

1つ目は、モデルの提示です。さまざまなモデルを話題にして話し合ってください。誠実に生きるすばらしさが伝わってくるお話を読み聞かせることもよい方法です。生き方のモデルとして感化され、育っていくものがあるはずで。

2つ目は、お子さんが、正直に真心のこもった行動がとれたときにはたくさん褒めてあげてほしいということです。大人が自分の行動に価値づけしてくれることで、それは次につながる貴重な体験となるはずで。併せて、気がかりなことがありましたら、いつでもご連絡をください。